

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成30年4月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 京都大学東南アジア地域研究研究所

職 名 連携研究員

氏 名 田 崎 郁 子

助成の種類	平成29年度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費研究課題名	プロテスタント・キリスト教との接触によるローカルな心的概念の再編			
上記以外で助成金を充当した研究内容				
助成金充当に関わる共同研究者	(所属・職名・氏名)			
発表学会文献等	①Tazaki Ikuko. Dynamics of Religious Practice and Socio-Economic Activities among the Protestant Karen in Northern Thailand. 13th International Conference on Thai Studies, Chiang Mai University, Thailand. 2017. Jul. 15th-18th. Abstract Book of the 13th International Conference on Thai Studies. P162. ②Panel: Transforming society of minority through Protestant Evangelism: Cases from the Karen's missionary in Burma and Thailand. (Chair and organizer: Tazaki Ikuko. Presenter: Tazaki Ikuko, Fujimura Hitomi, and Naw Siblut. Discussant: Kwanchewan Buadeang.) Paper: Tazaki Ikuko. Changing Karen's idea of reciprocity and involution of community development: under the influence of Protestantism and cash cropping in Thailand. Consortium for Southeast Asian Studies in Asia. Chularongkorn University (Bangkok). 2017. Dec. 16th-17th.			
成果の概要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会計報告	交付を受けた助成金額	1,000,000 円		
	使用した助成金額	1,000,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		物品費	524,244円	
		旅費	386,660円	
人件費		0円		
その他	89,096円			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 多くの費用が必要な海外渡航調査と海外での研究発表費用を補助していただき、大変助かりました。常勤職にない若手研究者がこういった機会をより活用できるようになると良いと思います。			

## 成果の概要／田崎郁子

本研究の目的は、プロテスタント・キリスト教との接触によるローカルな心的概念の再編について、東南アジア大陸部山地に居住するカレン民族を事例に明らかにすることである。第3世界へのプロテスタント・キリスト教の宣教活動では、現地語が重視され聖書の現地語翻訳が行われる。その過程でローカルな概念が変容し、新たな意味をまとして人々の生活の中で用いられ、それがローカル社会における日常生活全体の再編をもたらしてきた。本研究ではその中でも「魂」「精神」を意味するカレン語に着目し、その変遷に伴うローカル社会の身体－精神観、すなわち人間観の変容を明らかにする。これによって、キリスト教受容が近代主体的個人を形成するという従来の近代化論とは異なるローカルな人間観の再編について、人類学的に明らかにする。

上記の目的のため、2017年7月から8月の約1ヶ月間、助成金を用いてタイ国へ渡航し、タイのカレン社会におけるキリスト教への改宗や聖書の翻訳がもたらす日常生活への影響について調査した。特に、チェンマイ県ボケオ行政区のカレン村落においてフィールドワークを行い、プロテスタント・キリスト教徒カレンと精霊信仰や仏教徒カレンを比較対照しながら、以下の点について参与観察とインタビューを行った。①カレンの人々の死生観、疾病、夢など、改宗以前は精霊信仰、祖霊祭祀と関連の深かった部分が、キリスト教への改宗以後はどのような新たな言葉で捉えられ、それと共に人々の認識が変容したかについて。②なぜキリスト教徒カレンはグラ（魂）ではなくサ/サスム（心、精神）という言葉で心的概念を意味するものとして用いるようになったのか。またそのことによって、キリスト教徒カレンの人間観、心身の状態、主体性の理解はどのように再編したのか。

調査によって明らかになったのは、以下の2点である。

①改宗後の年数の短い人（数年～20年程）や60代以上のタイ語教育をほとんど受けていない年長者世代は、キリスト教の信仰を呪術的な神強制で捉えていることが多い（片岡 2007 参照）。例えば病の治癒、豊作や発展、教会礼拝の参加や祈祷会開催の理由などについて、神に祈りを捧げることで加護を得られると捉え、精霊信仰的な供犠との交換の連続の中でキリスト教信仰を理解している。こういった人々は、キリスト教の神に頼っても精霊に頼っても仏僧に頼っても、不幸に陥ると過去へ遡及した理由付けを行いながら、不幸の原因を取り除くための彼岸の大きな力に祈り、あるいは供犠することで場当たりの最善を尽くす。その行為が全体として呪術化や神強制という傾向を導く。あるいは病や人間関係、経済状態などが改宗以前より良くなるという現象を、神の奇跡としてパターンにはめ込んで語りなおす。改宗はこのような枠組みで発生する故に、現世利益を叶えるため出来得る限りでキリスト教や仏教、精霊信仰への度重なる改宗が繰り返される。ここで見られるキリスト教化とは、合理化というより呪術化、儀礼主義化であり、キリスト教化による合理化、近代化という大きな図式に当てはまらない、精霊信仰からの連続性が見られる。こういった人々に対し、高等教育の浸透による神学普及が、より西洋的な理解に基づいたキリスト教信仰体系をもたらしている。

②キリスト教徒はノコ・ノサ（身体・精神）という二元論で人間を捉えている。しかもこの精神は、自由で自分の意志いかんで操作することが可能であり、例えば人々を悪事へと誘惑する悪魔にあらがうのはこのノサ（精神）である。これは、精霊信仰や仏教徒カレンがグラ（魂）

と呼ばれる概念を元に、人間観を形成していることとは対照的である。グラは精霊に呼ばれたり夢を見ることで容易に人間の体から離れ、また彼岸と此岸を行来する。グラが長期間人間の体から離れると人間に病や死をもたらすため、カレンの儀礼や治療の主な関心はグラを人間の体に戻すことに向けられる。つまり、グラ概念は人間の精神的主体性を認めるものではなく、人間存在が精霊に操られるように、個人の意思ではどうにもならない常に外部から操られるものであるという認識の元に成り立つ。今後はこのようなキリスト教徒に見られる人間観の変容を、より詳細に検討していきたい。

本来ならば2、3月にも再度タイとミャンマーへ渡航し現地調査を行う予定であったが、妊娠のため実現できなかった。なお、このフィールド調査については、既に以下の2つの短報、エッセイが掲載されている。

- 1) 田崎郁子、2018、「タイ渡航調査報告」『大谷大学真宗総合研究所研究所報』No.71. PP. 28-29.
- 2) 田崎郁子、2017、「第13回タイ研究国際会議参加記」『東南アジア学会会報』第107号、PP. 28-29.

加えて、調査したカレンの人々のキリスト教信仰について、『大谷大学真宗総合研究所紀要』への投稿論文を現在執筆中である。また、本助成によって以下の2つの国際学会での発表が可能となった。

- 1) Tazaki Ikuko. “Dynamics of Religious Practice and Socio-Economic Activities among the Protestant Karen in Northern Thailand,” the 13th International Conference of Thai Studies. 2017. July. 15-18th. *Abstract Book of the 13th International Conference on Thai Studies*. P162.

- 2) 国際学会パネルの組織と発表（代読）

Panel: Transforming society of minority through Protestant Evangelism: Cases from the Karen's missionary in Burma and Thailand.

Paper: “ Changing Karen’s idea of reciprocity and involution of community development: under the influence of Protestantism and cash cropping in Thailand,”

Consortium for Southeast Asian Studies in Asia. Chulalongkorn University (Bangkok). 2017. Dec. 16-17th.